

TSUDOI

スタンダードプラン
週次レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆TOP銘柄分析ガイド

今週の急上昇銘柄分析、上昇理由と将来予測

◆狙い目：中堅銘柄発掘ガイド

世界トレンド銘柄の分析

◆大穴：新規銘柄発掘ガイド

CMC新規リスト銘柄分析

◆調査銘柄 早見表

TOP	 <u>XRP</u>	 <u>Ondo</u>	 <u>Aave</u>
中堅	 <u>Artificial Superintelligence Alliance</u>	 <u>Onyxcoin</u>	 <u>KAITO</u>
新規			

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#)をご覧ください。



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。



有料
レポート

週次トークン価格高騰 TOP銘柄

トップ銘柄 分析ガイド 3/7

本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）サイトにて、7日間を通してトークン価格が最も高騰もしくは下落したTOP銘柄を調査し情報を提供するものですが、今週は、中堅銘柄同様、検索トレンドを中心に話題になっている銘柄を週次でまとめて分析となっています。この分析から市場で何が起こったのかどの銘柄が注目されているのかを把握することができます。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#3	 XRP	Payment	¥21,729,798,738,936	¥374.97	—	▲13.8%
#32	 Ondo	RWA	¥542,510,744,465	¥171.72	2.99倍 (LINK比)	▲15.52%
#34	 Aave	Lending & Borrowing	¥512,999,470,087	¥34,005.46	—	▲10.73%

TOP銘柄チャート

上記画像は、Coinmarketcap（CMC）で記載されている7日間の価格推移を表示したチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▲6.58%となっております。





参照元：Coinmarketcap

銘柄の価格高騰要因(考察)



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

XRP：XRP

本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。



注目ポイント：XRPのオンチェーンデータ好転とETF承認期待が再燃

オンチェーンデータの好転とXRPのスポットETF承認に対する期待が再燃しています。先週発表されたデータによると、アクティブアドレスが一気に620%増加し、取引所から大口のXRP流出が顕著で、需給バランスに対する買い圧力が強まるとの見方が浮上しています。さらにXRPのETF化が実現すれば、機関投資家の大量参入が予想され、XRPLネットワークへの資金流入が加速する可能性があります。XRPは古参プロジェクトであり、銀行や金融機関との提携実績が豊富な点も強みとなることから、これらが同時に進展すれば、他チェーンを大きく凌ぐエコシステム構築が進み、価格上昇の大きな後押しになるシナリオが期待されます。

Ondo : ONDO

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。



注目ポイント：直近ニュースで信頼性向上とXRPL活用と市場拡大の可能性への期待

Ondoは直近、TVL10億ドル突破や元下院金融サービス委員長McHenry氏の参加表明などで信頼性を高めています。また、直近RippleのXRPL上で米国債をトークン化し決済効率を高めるなど、Rippleの広範な金融機関提携が規制緩和時に大きく作用する可能性が示唆されています。直近では7日に行われるホワイトハウスのクリプトサミットでの発表にも期待が集まる中、米国政策当局や既存金融機関との連携が強化されれば、OndoはXRPLを活用して大規模な資金流入や新たな協業を獲得し、ブロックチェーンによる実世界資産のトークン化の先駆けとしてリーダーシップを築く存在となることが期待されます。特に米国規制環境の変化次第では、Ondoの技術力とネットワークが一気に注目を集め、市場におけるポジションをさらに強固なものにする可能性があります。

Aave : AAVE

本銘柄は、直近3カ月で4度目の選出となります。



注目ポイント：買い戻しとリスク管理強化で金融連携を加速

Aaveは最近のガバナンス提案で週100万ドルのAAVE買い戻しや収益再分配、Aave Finance Committee設立など、大幅なトークノミクス改革を公表してます。また、v3をSonicメインネットに拡大し、貸借市場を強化すると同時に、リスク管理面では、相場急落時の大損失を防ぐために一定の資金をプロトコル内にとどめる「Umbrella」を導入し、Aave独自のステーブルコイン（GHO）の割引・特典システムを刷新する「Anti-GHO」を検討中です。また、旧トークンLENDからAAVEへの完全移行を進めることで、管理を簡潔化しながら長期的な安定性と流動性の維持を狙っています。今後は買い戻し効果の継続と既存金融要素との連携深化が進めば、DeFi主要プロトコルとしてさらなる地位向上が期待されます。

CMCサイト内 検索トレンド 狙い目：中堅銘柄

狙い目：中堅銘柄 発掘ガイド 3/7

このガイドでは、将来的に市場をリードする可能性を秘めた中堅銘柄を見つけるために、下記分析手法を採用しています。Coinmarketcap（CMC）における過去7日間の検索トレンドや訪問者数を分析し、注目を集めている中堅銘柄に関する情報を提供することです。

検索トレンド3銘柄

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#58	 <u>Artificial Superintelligence Alliance</u>	AI & Big Data	¥223,257,869,690	¥93.44	2.44倍 (NEAR比)	▼5.18%
#111	 <u>Onyxcoin</u>	Layer1	¥75,319,104,926	¥2.31	540.81倍 (ETH比)	▼3.93%
#130	 <u>KAITO</u>	AI & Big Data	¥61,836,345,895	¥256.16	8.81倍 (NEAR比)	▼37.09%

狙い目：中堅銘柄チャート

以下の画像は、CMCでの7日間の価格推移のチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▲6.58%となっております。





参照元：Coinmarketcap

検索トレンド中堅銘柄 注目要因(考察)



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

Artificial Superintelligence Alliance：FET

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：ASI-1 Miniと分散型AI信頼フレームワークの発表と今後の展開

本銘柄は、分散型AIの研究開発を推進する大規模なオープンソース組織であり、組織の一員であるFetch.aiが発表したWeb3 LLM「ASI-1 Mini」でAIエージェントの自動化や透明性向上を目指す。一方、組織の一員であるSingularityNETとPrivado IDは、AIエージェントの信頼性と安全性を高める分散型認証基盤を共同開発を発表しております。今後は、より高度なAIエージェント間のコラボレーションや自己ガバナンス体制が整備され、AGI（汎用人工知能）の実現に向けた革新的なサービスや投資機会が拡大していくことが期待されます。

Onyxcoin : XCN

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：新たな独自チェーンの発表とリキッドステーキングの導入への期待

3/4 Onyxは「Goliath」Layer-1ブロックチェーンを発表。これは金融機関向けの高速処理（24,000TPS）を実現するブロックチェーンで、2025年第3四半期にテストネット、2026年初頭にメインネットが予定されています。さらに、3/5 「sXCN」リキッドステーキングソリューションを導入。これによりXCNトークンのステーキングが容易になり、流動性と報酬の分配が強化されます。今後の想定シナリオとして、短期的にはGoliathへの期待でXCNの価格上昇が継続し、sXCNの普及によりステーキング需要が増加。中期的には、Goliathの実用化が進めば、金融機関の採用拡大がXCNの価値を押し上げる可能性が期待されます。

KAITO : KAITO

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：主要取引所上場ラッシュで注目集まり、エアドロ売り圧を跳ね除ける

KAITOトークンはエアドロップ直後の売り圧力を跳ね返し、主要取引所への上場が追い風に市場の注目度を高めています。2/27にCoinbaseで先物取引が始まり、2/28にはタイ最大手Bitkubへ上場、3/5にはUpbitへの上場を経験し、投機資金を一段と呼び込んでいます。短期的にはこうした取引所ニュースや市場トレンドに左右されやすいものの、AI搭載の次世代Web3情報プラットフォームとしては、「Web3版Google」としての地位をどこまで確立できるかが中長期的には鍵となるでしょう。追加ユースケースの創出が今後の成長を支える要因となるでしょう。

大穴：新規銘柄 発掘ガイド 3/7

このガイドでは、将来有望な「大穴銘柄」を発掘するため、CMC上で時価総額ランキング200位から800位に位置する銘柄を調査し、成長性の高いものに「Goodマーク」を付与する手法と、Tier1 VCが投資する銘柄の中から直近7日間で時価総額が急上昇したものを分析する手法を採用しています。大穴銘柄における「Goodマーク」は、TOPや中堅銘柄の「Goodマーク」とは性質が異なり、時価総額が低いことから成長の幅が期待できる反面、リスクも伴うため、リスクリターンのバランスを慎重に判断する必要があります。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	直近7日間 のCMC推移
今週該当する銘柄はありませんでした。						

今週の重要トピック

ホワイトハウス初のクリプトサミット開催！BTC国家備蓄の可能性と市場活性化の狙いとは？

3/7 米国のホワイトハウスで初めて開催される「クリプトサミット」は、暗号資産分野の規制や育成策を一堂に会して議論する注目の会合となります。

トランプ大統領をはじめ、財務長官やSEC・CFTCの委員長、主要取引所や関連企業の代表者らが参加し、ステーブルコインの裏付け資産や税制優遇、民間主導のデジタルドル導入などが検討されます。なかでも、ビットコイン（BTC）を国家準備資産として導入する案には大きな関心が寄せられています。しかし、専門家の多くはその可能性は低いとみています。なぜなら、大統領令で強行してしまうと、次の大統領が就任した際に政策が覆されるリスクが高く、議会承認を得るなどの根回しが不可欠と考えられるためです。

また、ボラティリティの高い暗号資産を公的備蓄に組み込むリスクも懸念材料となります。一方で、今後の関税施策による利下げが確定すれば、投資マネーが流入しやすい環境が整う可能性があり、そこで暗号資産市場を一気に盛り上げたいという政権側の狙いも推測されます。今後の正式発表や議会での議論を通じて、米国の暗号資産政策がどのように具体化していくか、引き続き注目です。

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap：<https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp：<https://www.coincarp.com/>
- Messari：<https://messari.io/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト：<https://tsudoi-platform.co.jp/>